



詳細資料あり

(名古屋市における地盤沈下の状況)

令和3年8月31日

市政記者クラブ 様

環境局地域環境対策部地域環境対策課

地域環境対策課長 磯部 (TEL 972-2671)

水質地盤係長 梅本 (TEL 972-2675)

(東海三県地盤沈下調査会 (中部地方整備局記者クラブ) 及び愛知県 (県政記者クラブ) と同時発表)

## 令和2年度名古屋市における地盤沈下の状況について

令和2年度の本市の地盤沈下の状況についてとりまとめましたので、お知らせします。

### <地盤沈下の状況>

- ・年間で1cm以上の沈下域は形成されませんでした。

### <地下水位の状況>

- ・平均地下水位は、令和元年度と比較して、おおむね横ばいでした。

※沈下域:年間1cm以上の沈下が認められた、隣接する3地点以上の水準点によって囲まれた区域のこと。

### 1 地盤沈下の状況

令和2年度の一級水準測量\*結果では、年間で1cm以上の沈下域は形成されませんでした。一級水準測量を行った250点の有効水準点のうち、沈下を示した水準点は228点(91.2%)あり、年間沈下量が最も大きかったのは中川区富船町にある水準点で、沈下量は0.66cmでした。

※一級水準測量:地面の標高を、0.1mmの単位で測定する測量

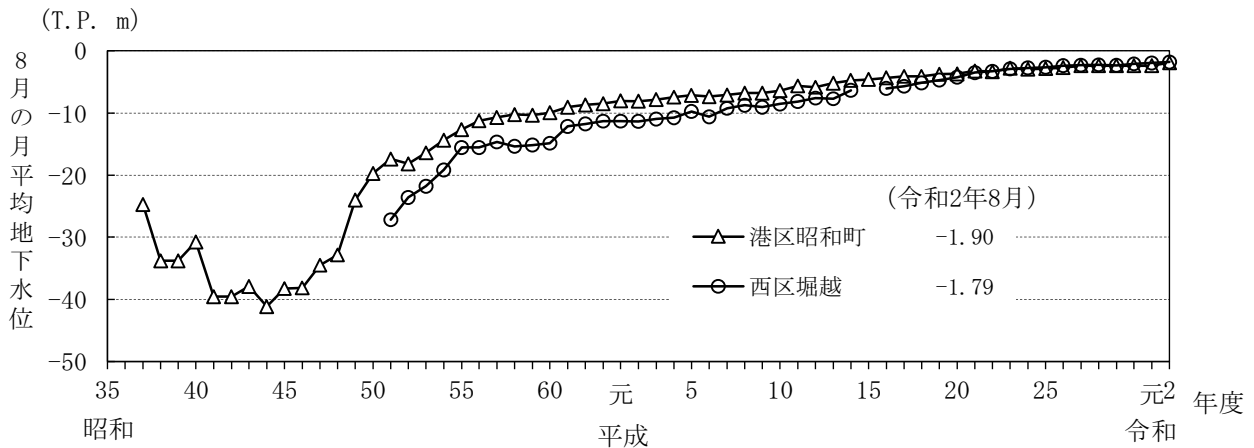
#### 沈下を示した水準点の数 (過去5年間)

観測年度	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	
有効水準点数	260	254	254	254	250	
沈下点数	0.5cm未満	46	197	179	172	212
	0.5cm以上1cm未満	0	16	2	14	16
	1cm以上	0	1	0	0	0
	合計	46	214	181	186	228

## 2 地下水位の状況

地下水位の経年変化についてみると、昭和46年頃まで地下水位は低下し続けていましたが、昭和47年頃から上昇傾向に転じました。昭和49年から昭和56年まで地下水位は急激に上昇し、その後、地下水位の上昇幅はわずかとなり現在に至っています。

主な観測所における地下水位の状況



## 3 今後の対応

本市の地盤沈下は沈静化したものの、渇水時には急激に地下水位が低下し、再び沈下を起こす可能性があると考えられます。そのため本市としては、今後とも引き続き地下水の採取規制及び地盤沈下・地下水位の監視を実施していくとともに、国が昭和60年4月に策定（平成7年9月一部改正）した「濃尾平野地盤沈下防止等対策要綱」に基づき、国及び関係地方公共団体と連携し、地盤沈下対策を推進してまいります。